

医療AIは 世界と日本で どこまで来たか

【2026年最新】カルテ・画像診断・問診の最前線と限界

医知創造ラボ

2026年5月

2026年、 医療AIは 「実証」から「実用」へ

いま世界と日本で何が起きているか

1



画像診断

2



カルテ記録

3



問診・トリアージ

4



診断推論・創薬

医療AIの4つの領域

① 画像診断



CT・MRI・内視鏡・
病理から異常を検出

② カルテ記録



会話からカルテ
下書きを自動生成

③ 問診・トリアージ



症状から病名・
受診科を提示

④ 診断推論・創薬



病歴から鑑別を推論/
新薬探索

医療AI

【世界編】医療AIの最前線

米国でいま起きていること

約8割

約20%

約80%

FDA承認のAI医療機器のうち
画像診断系が占める割合

画像診断AIが承認の主役



POINT 01

承認は累計1,400件超 (2025年)



POINT 02

脳卒中CTの自動解析→
専門医へ即通知が標準に

1

診察室の会話



2

AIが背後で
自動文字起こし・構造化



3

カルテ下書きを
電子カルテへ



記録時間を大幅に削減・医師の事務負担を軽減

医師に迫る

研究では生成AIが医師に
並ぶ・超える成績の報告も



生成AIの「診断力」



模擬患者の研究で
若手医師を上回った報告



経験の浅い医師の
診断を補助



ただし研究環境での話。
実臨床の安全性は別問題

【日本編】 日本の医療現場は どこまで来たか

内視鏡AI・AIカルテ・AI問診

世界初

日本企業が世界初の
胃がん検出支援AIを開発・承認

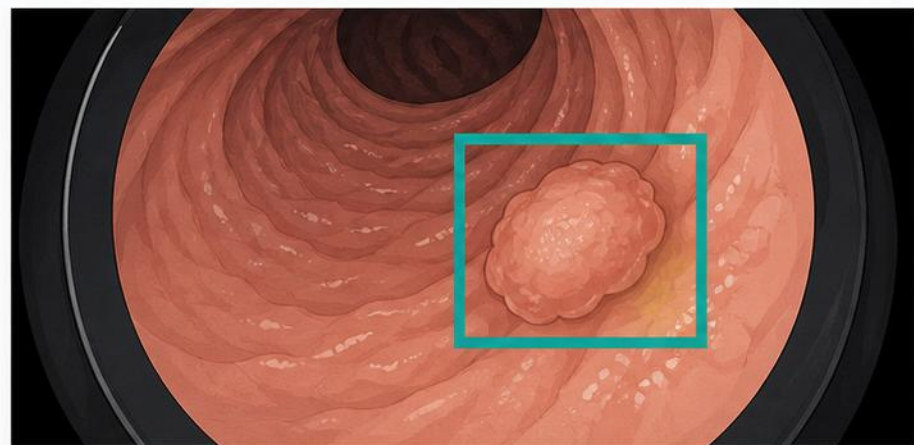
日本がリードする内視鏡AI



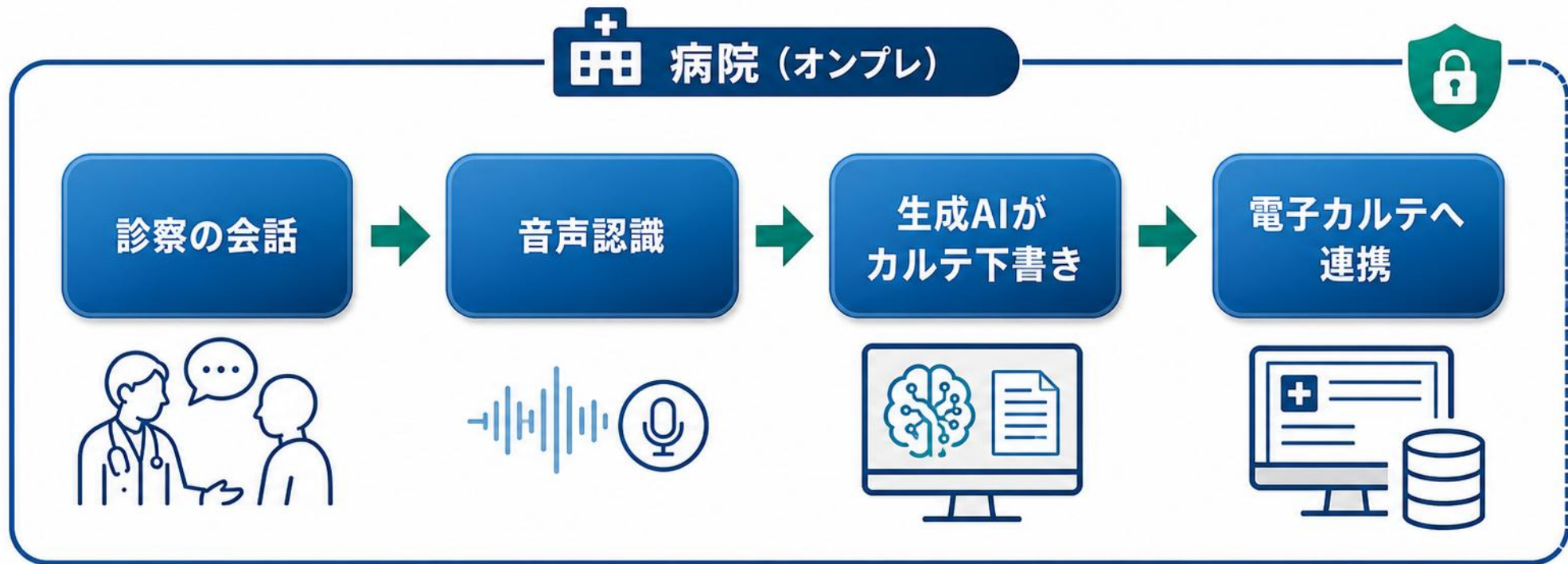
世界トップ級の内視鏡医と
症例データの蓄積が強み



日本ならではの分野



AIカルテ下書きの実証が始動



患者情報を外に出さず院内オンプレミスで安全に処理

AI問診はすでに現場の戦力

9:41 1/6

AI問診

本日はどのような症状で受診されましたか？

発熱がある

喉が痛い

咳が出る

頭痛がする

だるさがある

次へ

-  1 来院前・待合で症状を入力
-  2 AIが次の質問を選択
-  3 結果を電子カルテへ連携
-  4 問診時間を短縮・外来の混雑を緩和

2026年度 診療報酬改定が AI活用を後押し

制度面からの追い風



制度

診療報酬による
評価・支援



普及

医療機関での
導入・拡大



制度が現場のAI活用を力強く後押し

領域	世界（米国）	日本
 画像診断	承認件数で先行	<u>内視鏡AIで世界トップ級</u>
 カルテ記録	アンビエントAIが普及	オンプレで実証段階
 問診	チャットボット型	<u>電子カルテ連携型が普及</u>
 制度・規制	償還を改善へ	<u>診療報酬改定+AI推進法で後押し</u>

最後に決めるのは人間

- ✗ 幻覚：もっともらしい誤りを自信満々に提示
- ✗ 偏った回答が医師の判断をゆがめる
- ✗ 誤診時の責任の所在が未整理

AIは医師を補助する 道具・限界とセットで使う

- 1 世界は普及で先行
- 2 日本は内視鏡AIの強み+安全性重視
- 3 まずは身近なAI問診から触れてみる

